

校長挨拶

校長 隠澤浩雄



広島県立広島皆実高等学校は、明治34年に県下で初めての県立女学校として創設された広島高等女学校（「広島県女」）を母胎にしています。110年を超える歩みを持つ本校の歴史と伝統の中に脈々と受け継がれてきたものは、「少々無理なことでも頑張りぬく」、「文武両道」という広島県女の精神です。本校には、「一人一人の高いレベルの文武両道」に向かう挑戦者がたくさんおります。生徒達の高い志を支援し、グローバル社会で活躍できる有為な人材を育てることを目標として取組みを進めております。

平成28年度においては、難関国立大学に6名合格し、普通科・体育科の卒業生の40%にあたる99名が現役で国公立大学に合格しました。

さらに、様々な分野での全国大会出場者は187名にもなりました。例えば、地元中国インターハイに45名・広島開催の高等学校総合文化祭に6名・スーパーコンピューターコンテストへ3名出場しました。また、第39回全国高等学校柔道選手権大会では女子個人で優勝を果たしました。

また、本校には専門学科として、5年一貫教育の衛生看護科・専攻科があり、最短期間で看護師資格を取得することができます。しかも、平成16年度以来13年間、看護師国家試験合格率100%を維持しています。生徒たちは、広島大学病院などでの臨地実習等を経て高度な医療技術を身に付け、県内を中心に確実に就職していきます。

平成4年度に設置された体育科は、学校の体育的活動で広島県をリードし、アスリートや指導者の育成などを行っています。平成25年7月には、県立学校では初めてグラウンドが人工芝化され、整った環境のもとで競技力の向上を目指しています。

このように本校では3つの学科の約1000人の生徒たちが、それぞれの分野のトップを目指して協働し、切磋琢磨し、大きな成長を遂げています。

平成27年度から、本校は広島県教育委員会から「広島版『学びの変革』アクションプラン」に基づく「『学びの変革』パイロットスクール（活用コアスクール）」として指定を受けています。この取組みを通し、確かな知を基盤とした思考力を鍛え、情報を発信し、新たな価値の創造に挑戦していきます。

こうした本校の教育活動の取組みを、このホームページを通じて発信してまいります。地域の皆様、県民の皆様、全国で活躍しておられる同窓生の皆様、今後とも広島皆実高校に多大のご支援を賜りますようお願い申し上げます。